

八幡昌樹の社会科（第3学年）研究計画

1 本研究で目指す子ども

新学習指導要領では、社会科の目標として「グローバル化する国際社会に主体的に生きる」という言葉が加わった。また、中教審答申では、「世界の国々との関わりへの関心を高めること」を踏まえた学習内容の見直しが求められている。このことから、自分の生活は外国とどのようにかかわっているのかをとらえさせる必要があると考える。外国とのかかわりに関して言えば、日本は昔から、外国のものや文化を取り入れて自国化することで、生活を豊かにしたり文化を発展させたりしてきた歴史がある。つまり、「私たちは外国とのかかわりがあるから豊かな生活ができる」と言える。

私は、3学年において**自分の生活と外国とのかかわりを考え、社会的事象の特色をとらえる子ども**の育成を目指す。具体的には、「私たちの生活は外国とのかかわりがあって豊かになっている。それは、社会的事象には〇〇のような特色があるからだ」ととらえる子どもである。このように外国とのかかわりをとらえた子どもは、これからの自分の生活において空間的な広がりという視点を持ち、身近な地域に見られる世界の国々とのかかわりに関心を高めていくのである。3学年からこの姿を目指すのは、身近な地域を学習の対象とするからこそ、身近な地域、市、県、国、世界へとつながる空間的な広がりに着目するという「見方・考え方」を働かせることを、子どもに促すことができるからである。

これまでも外国とのかかわりを学習してきた。子どもは、自分の生活と外国とのかかわりがあるという事実はとらえてきた。しかし、外国とのかかわりが自分の生活を豊かにしているとはまでは考えられなかった。また、昨年度も、同じ「外国とのかかわり」を対象として研究を進めてきた。子どもは自分の生活とつなげて考えることに難しさがあった。これは、外国とのかかわりを追究する学習問題の結論に対して自分の考えを表出させただけでは、自分の生活を想起できなかったためだと考える。

私は、次のように改善を図る。一つは、子どもにとって外国とのかかわりを追究せざるを得ない問いを生むための事実を提示することである。これによって、子どもが外国人、もの、文化に対する問題意識を高め、空間的な広がりに着目するという「見方・考え方」を働かせ、事象の特色を追究していけるようにする。二つは、事象に関する立場を明確にして追究させることである。例えば消費者と販売者のように事象に携わる人々の立場と自分を含めたもう一方の立場を設定する。そして、事象に携わる人の工夫に対する、もう一方の立場の思いを問う。子どもは、自分を含めたもう一方の立場について考えることで、自分の生活を想起して考えられるようになるのである。

このような改善を図ることで目指す姿に迫っていく。

2 本研究で育成する資質・能力

①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③態度
○社会生活に関する知識 ○具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能	○考えたことや選択・判断したことを表現する力 ○社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力	○地域社会の一員として、よりよいまちづくりに協力しようとする態度 ○主体的に学習の問題を解決しようとする態度

3 主張する働き掛け

子どもは、事象に関する調査を通して自分たちの生活の実態をとらえている。その結果を基に、問題解決的な学習を通して事象に関する追究を進めている。これまでに、具体的な知識を獲得している。事象の相互の関連にも気付いてきている。

さらに、外国とのかかわりに関する調査活動を通して、外国とのかかわりがあるという事実に気付き、その理由や自分の生活とのかかわりまではとらえていない(C0)。

このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1
調べた事実とずれを生む外国とのかかわりがある事実、事象に携わる人の話を提示し、疑問に思うことを問う。

自分の生活と外国とのかかわりを追究せざるを得ない学習問題を設定させるための働き掛けである。

まず、前時までに行った調査活動で調べた事実とずれを生む外国とのかかわりがある事実、事象に携わる人々の工夫や努力に焦点付けた話を提示する。子どもは、提示された事実がこれまでに分かっている事実と違っていることにずれを感じ、問題意識を高める。ここで、疑問に思うことを問う。子どもは、**空間的な広がり、人々の工夫や努力に着目して**、「なぜ外国とのかかわりがあるのか」と考え、学習問題を設定する(①知識・技能③態度)。

働き掛け2
学習問題に対する予想、その効果を問う。

設定した学習問題を解決するための追究の過程に見通しをもたせるための働き掛けである。

学習問題を設定した子どもに、学習問題に対する予想を問う。このときの予想が、今後の追究の視点となるからである。子どもは、これまでの生活経験や学習内容を想起し、**空間的な広がり、人々の工夫や努力に着目し、自分の生活と関連付けて考える**という「見方・考え方」を働かせ、事象に携わる人々の工夫や努力に関する予想をする(①知識・技能③態度)。そのときに、その工夫や努力をすることでどうなるのかと効果を問う。子どもは、自分を含めた立場の人のメリットを考える(①知識・技能③態度)。次にその予想を解決するために知りたいことを問う。子どもは外国とのかかわりが分かる事実を知りたいと考える。さらに、それをどうやって調べるかを問う。子どもは追究する方法を考える。このように予想と方法を考えた子どもは、追究の過程に見通しをもっている状態である。

働き掛け3
外国とのかかわりが分かる事実を提示し、分かったこと、考えられることを問う。

課題解決に必要な情報を収集させ、自分の生活と外国とのかかわりを考えさせるための働き掛けである。

学習問題を解決する見通しをもった子どもに、調べて分かったことを整理するために、Tチャートを提示する。Tチャートは、2つの立場を併記することで、相互関係をとらえやすくするものである。そして、外国とのかかわりが分かる事実を提示する。課題解決に必要な情報を収集させるためである。提示した資料から、分かることを問う。子どもは、**空間的な広がり、人々の工夫や努力に着目し、自分の生活と関連付けて考える**という「見方・考え方」を働かせ、資料から分かる事象に携わる人々の工夫や努力をTチャートに記述する(①知識・技能⑤ツール活用能力)。

働き掛け4
分かったことから考えられること、事象に携わる人々の工夫や努力に対する異なる立場の思いを問う。

自分の生活と外国とのかかわりを考えさせるための働き掛けである。

Tチャートに分かったことを整理した子どもに、分かったことから学習問題に対してどんなことが考えられるかを問う。分かったことを関連付けて考えさせるためである。子どもは、友達のとつなげて話し合い、**空間的な広がり、人々の工夫や努力に着目して、自分の生活と関連付けて考える**、「見方・考え方」を働かせ、事象に携わる人々が行った工夫や努力を考える(②思考力・判断力・表現力④協働性)。

次に、そのような工夫や努力に対して異なる立場の人はどう思うのかを問う。子どもは、**空間的な広がり、人々の工夫や努力に着目し、自分の生活と関連付けて考える**という「見方・考え方」を働かせ、異なる立場の人のメリットを考える(②思考力・判断力・表現力⑤ツール活用能力)。

働き掛け5
自分の考えを確かめられる資料を提示し、学習問題に対する結論を問う。

自分の考えを確かめさせ、事象の特色をとらえさせるための働き掛けである。

どうすれば考えたことが確かめられるかと問う。自分の考えの検証を促すためである。子どもは、確かめられる資料を調べたり、携わる人に話を聞いたりすればいいと考える。そこで、考えを確かめられる資料を提示する。子どもは、自分の考えと照らし合わせて確かめる。

自分の考えを確かめた子どもに、学習問題の結論を問う。子どもは、**空間的な広がり、人々の工夫や努力に着目し、自分の生活と関連付けて考える**「見方・考え方」を働かせ、社会的事象の特色をとらえる(①知識・技能②思考力・判断力・表現力)。

このようにして、子どもは**自分の生活と外国とのかかわりを考え、社会的事象の特色をとらえる子ども(Cn)**になる。

4 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したCnになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した見方・考え方を働かせることができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け5を受けて、社会的事象の特色をとらえることができたかを、ノートの記述から検証する。
- ② 働き掛け1、2、3、4、5を受けて、社会的な「見方・考え方」を働かせていたかどうかを、発言やノート、Tチャートの記述から検証する。
- ③ 働き掛け1、2、3、4、5を受けて、想定した資質・能力を発揮していたかどうかを、ノート、Tチャートの記述から検証する。

5 年間の授業計画

- (1) 指定研究授業 (7月) 「店ではたらく人の仕事」 (14時間)
- (2) 中間検討会 (9月) 「昔の道具とくらし」 (10時間)
- (3) 初等教育研究会 (2月) 「新潟市のうつりかわり」 (9時間)